慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	農業と商工業の衝突（二、完）
Sub Title	
Author	堀切, 善兵衛
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1914
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.8, No.6 (1914. 7) ,p.652(26)- 664(38)
JaLC DOI	10.14991/001.19140701-0026
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19140701-0026

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

農業と商工業の衝突（二、完）

堀切善兵衛

四

吾人は前章に於て獨逸帝國宰相ベートマン、ホルウイツクの言を藉りて、農業の發展は必ずしも農産物代價の昂騰に據るに非らずして、主として農業の改善を計るに在ること、同時に此農業の改善は資本の充實と密接なる關係を有することを一言したり。然るに世人は動もすれば我國の農業が歐米諸國に比し、非常に集約的なるの事實を見て、直ちに我國の農業が極めて進歩し居り、世界に殆んど竝ぶものなしと論斷するもの有り。斯の如きは思はざるの甚だしきものにして彼の集約的農法が疎放的農法に比して進歩せるは論ずるまでもなしと雖も、然も其集約的農耕が、單に勞力の集積のみを主眼とするに於ては何等奬賛に價す可きものに非らず。況んや其勞力が無智蒙昧の人民の盲目的努力に過ぎざる場合に於てをや、即ち集約的農耕が進歩したる智識に依りて指導せられ、發達したる技術に依りて能く自然を征服し、斯くて一定の面積より最大高價の收穫を得るに及んで初めて農業の進歩を云々するを得可きのみ、而して自然を征服せんが爲めには赤手空拳を以て容易に其目的を達し得可きに非らず、之れが爲めに多くの資本と時日とを要す可きや敢て疑を容れざる所にして例へば古今東西普く企畫せられし灌漑事業の如き資本投下の最も著しきものなりと云ふ可し、此種の根本的事業は云ふに及ばず其他各種の肥料、耕耘用の諸機械若くは農作物運搬の車馬、自動車等に至るまで最も進歩したる農業には常に多大なる資本の投下せられつゝあるは爭ふ可らざる事實なり、然るに我農民の多數は其農業を幇助せしむる爲めの牛馬をだに有するもの少なく、彼等の資本と目す可きは單に土地其物に過ぎざるの有樣にして唯徒らに勞力のみを飽くまで土地に注入したればとて之を以て農業の進歩と目す可らざるや言を俟たず。諺に朝に星を戴て家を出で夕に月を踏んで歸ると云ふもの誠に我農民の勤勉精勵の實況を説明したる所なれども然も斯の如きは道德上幾干の價値あるやは別問題として、之を經濟上より論ずる場合には必ずしも稱賛を價するものと云ふを得ざる可し、蓋し最少の努力を以て最大の效果を取得するは

經濟上の原則にして我農民が牛馬若くは奴隷の如く、只徒らに多くの時間を勞役に費しつゝ有るの事實は必ずしも經濟の原則と一致するものに非らざればなり。吾人は我農民が今日と同樣なる勞役を費して尙多量の生產を取得するか、然らずむば其勞役の時間を短縮して尙同一量の生產額を取得するに至らば之を稱して我農業の改良進步なりと云ふに躊躇せざるものなり。米人は他人の甚しく勞働する有樣を評して He works like a negro と云ふ、然も此激しく働く黑人の農業を以て何人も進步したる農業とは稱せざるなり。又我移民の如き米國に於て農業勞働者として白人と競爭し、却て之に打勝つの有樣なるを見て我農業が進步せるの證左なりと云ふものありと雖も、之れ亦楯の一面のみを見て他の半面を觀過せる議論なり、何となれば我勞働者の白人勞働者に打動つは主として短少なる身體を利用して地上の勞働に便宜なる點と內地に於て非常なる勞苦を重ねし其經驗を以て白人の比較的容易なる勞役に對抗するが故、白人は寧ろ其勞苦の點に於て競爭に耐へざる次第にして農業其物が我の彼に優りたる爲めには非らざるなり、されば勞働者が一度變じて地主若くは企業家的農民と化するに於ては資本の利用に重きを置き結局米國流の農業を基礎として其上に日本人獨特の長所を利用しつゝあるもの比々として皆然らざるは無きなり。卽ち鑿井に依りて灌漑の水を求め、耕作若くは運搬の機械器具を備へ多數の牛馬を蓄ふるが如き土地其物以外に所謂農業的資本を要すること極めて多きの事實を知らざる可らざるなり。若しも內地農民の如く農業的資本として土地以外に無一物にして赤手空拳事に當らんとするに於ては、啻僅かに農事勞働者として一定の勞銀を取得するに止まり、到底農業經營者として白人の資本に依りて武裝せられたる競爭に耐ふ可くも非らざるなり。換言すれば集約的農耕に習熟せる我農民が更らに資本を利用するに至りて、初めて遺憾なきを得る次第にして、之れ農業進步の過程たる最初は疎放的にして漸次集約的に變じ、更らに進んで資本的農業經營の時期に移るものなりと稱せらるゝ所以なり。彼の臺灣若くは滿洲等に於てさへ、支那人は農耕に盛に牛若くは水牛を利用するの風習あり。而して內地移民は農業上に於て容易に彼等と競爭する能はざるの有樣なるは、畢竟之れ亦資本の助けを藉らざるが爲めにして、支那人の如き敢て近世文明流の農業的資本を利用すと云ふに非らざれども然も彼等の使用す

る牛、水牛の如き之れ又農業的資本の一たるに相異なく、之を用ふると否とは內地人と臺灣人との競爭上の勝敗を決する原因たるの一事を知らば、更らにより有力なる近世的幾多の資本は農業發達の上に如何に多大なる關係を有するかを想像するに足る可きなり。吾人は赤手空拳を以て根の限り、生の限り、奮發努力しつゝある我農業狀態を以て決して最も進步したる農業と認むること能はざるなり。

五

我國の農業が資本利用の方面に於て頗る缺如たる所あるは前言せる所の如し、而して資本利用の尙ほ足らざる結果として自然の征服に遺憾なる點少なからず之れが爲めに開墾若くは治水灌漑の便を全うするに依りて新たに良田美圃たらしむるを得る土地にして今日之を自然の狀態に放任しつゝあるもの全國に渡りて實に少なからざるなり。今農商務省の調査に從ひ開墾見込地の面積を擧ぐれば實に左の如きものあり。

府縣名	開墾地目變換に依り田と爲すもの	開墾地目變換に依り畑と爲すもの
北海道	三二二、〇〇〇町	七八七、〇〇〇町
東京	——町	二、〇〇〇町
京都	八〇〇	一、〇〇〇
大阪	二、五〇〇	一、〇〇〇
神奈川	二、〇〇〇	五、五〇〇
兵庫	六、〇〇〇	—
長崎	七、〇〇〇	二、六〇〇
新潟	五、六〇〇	八、七〇〇
埼玉	一九、〇〇〇	二、〇〇〇
群馬	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇
千葉	四〇、〇〇〇	一、〇〇〇
茨城	六、〇〇〇	二八、〇〇〇
栃木	五、〇〇〇	一五、〇〇〇
奈良	九〇〇	五〇〇
三重	六、〇〇〇	—
愛知	七、〇〇〇	六、〇〇〇
靜岡	一、〇〇〇	一八、〇〇〇
山梨	二、五〇〇	七、〇〇〇
滋賀	二、五〇〇	—
岐阜	三、〇〇〇	五、五〇〇
長野	一七、〇〇〇	一〇、〇〇〇
宮城	三、〇〇〇	六、〇〇〇
福島	三、〇〇〇	八、〇〇〇
岩手	五〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇
青森	一五、〇〇〇	三〇、〇〇〇
山形	五、〇〇〇	一四、〇〇〇
秋田	三一、〇〇〇	五、〇〇〇
福井	二、〇〇〇	—
石川	五、〇〇〇	三、〇〇〇
富山	一六、〇〇〇	五、〇〇〇
鳥取	六、〇〇〇	二五、〇〇〇
島根	二、〇〇〇	三、〇〇〇
岡山	五、〇〇〇	三、〇〇〇
廣島	三、〇〇〇	三、八〇〇
山口	一三、五〇〇	—
和歌山	、〇二〇	五〇〇
徳島	六、五〇〇	一、〇〇〇
香川	三、〇〇〇	一、五〇〇
愛媛	三、〇〇〇	四、〇〇〇
高知	一、五〇〇	八、〇〇〇
福岡	一五、〇〇〇	一、〇〇〇
大分	二〇、〇〇〇	六、〇〇〇
佐賀	一二、五〇〇	二、〇〇〇
熊本	七、〇〇〇	三、〇〇〇
宮崎	一〇、〇〇〇	二、五〇〇
鹿兒島	六、〇〇〇	二七、〇〇〇

沖　縄	三〇〇	二、〇〇〇	合　計　七〇一、〇〇〇　一、〇九五、〇〇〇

（尙各府縣見込地所在地名は之を省略す）

以上を以て大正二年米作田總面積二百九十一萬町歩に比較する時は田の增加のみに於て既墾地の約四分の一の面積に相當するを知る可し而し我國の米收穫を平均約五千萬石と見做すに於ては一千二三百萬石の米の增收を之に依りて期するは決して困難なりと云ふ可らず。況んや疏水灌漑の便を全うすると共に、既墾地に向つては更らに資本的農耕を試みに以て其一定面積よりの收穫をば今日以上に增加せしむるの途一方に存在するに於てをや。而して我國は近年外米の輸入年々少なからざる高に上り、之れが爲め輸入超過の一原因を形成しつゝあるは爭なき次第なるが、今內地北海道のみに於て一千二三百萬石の米を增收し得るに於ては今後我人口が相當に增加すと雖も、尙ほ裕に國內の需要を充し得可きや多く疑を容れざる所なる可し。同時に國內に於ける米產額が國民の需要を充足して餘りあるに於ては米穀の價も敢て甚だしく騰貴するの理由は有ることなく、卽ち吾人の前言せるが如く彼の商工業者若くは勞働者及び直接生產者に非らざる他の社會的階級に對しても何等の迷惑を及さずして、我國農業の發達を期し得べきなり。

されば近世歐米諸國に於て商工業の最も進步したる諸國と雖も尙ほ農業上に多大の援助を與へつゝあるの例は極めて多き所にして、例へば一九一〇英國々會を通過して制定公布せられたるDevelopment and Road Improvement Fund Act中には荒地の開拓及土地の排水に關する事項を以て同基金より幇助す可き事業の一と規定したるは世人の知る所なる可し。又獨逸が土地の改良と耕地整理との爲めに多大の努力を惜まざるは、今更ら云ふに及ばず。墺太利は殊にメリヲラチヲンスフンドなるものを設けて一般的治水灌漑と土地の改良基金に充當して以て其事業を奬勵し、佛國にては最近十年以來土地改良事業の發達著しきものあり。政府は四千萬圓を土地抵當銀行に提供し僅々二分五厘の低利を以て之を土地改良事業の爲めに貸出さしめ以て自治體若くは個人の斯業を奬勵するものあり。彼のロオン河口附近の排水の如き其成績頗る見る可きものの有りと稱せらる、殊に疏水灌漑及び土地改良に於て近時目覺しき成功を遂げたるは伊太利にして、元來伊太利の農業は疇昔羅馬時代の隷農的大農組織の廢滅に歸して以來甚だ振はず。就中マラリヤと

降雹と水害とは伊太利農業の三大敵と稱せられたる所なりしが、伊太利政府と地方自治體の熱心なる奬勵努力と技術の進歩とは遂に是等の三大敵を漸次に驅逐するに至り、彼のポー河沿岸の地方に於ける排水事業及び羅馬附近の荒地を變じて萬頃の良圃たらしめたる其成功とは世人の驚嘆惜かざる所なり。更らに米國の如きも灌漑事業の爲めに常に多大の國費を支出して惜まず。殊に彼のカリフホルニア州に於て鑿井事業の盛に行はれつゝあるは世間に隱なき所にして中央政府は一九〇二年のReclamation Actの發布以來、西部十六州に存する國有地を拂下げ、其代金を以て排水灌漑及び開墾を奬勵するの方針を立て政府が今日まで之が爲めに費したる所は既に一億二千萬圓を出づと稱せらる。されば米國の農業が其鐵道の發達と相俟つて驟々乎として底止する所を知らざるが如き決して偶然に非ずと云ふ可し。

六

吾人は我國の農業が決して進歩したるものと云ふ能はざることを論述したり。從て科學の利用と資本の投下とに依りて、我農産物の數量と品質とを增加改良し得可き餘地尙は極めて多きを信じて疑はざるものなり。而して科學の應用は智識の進歩と共に漸次世に行はるゝに至る可しと雖も、然もこれとて一方に資本の應援を借るに非らずむば到底望んで得可らざる次第なり。而して資本の問題に至りては獨り農民が其不足を感じつゝあるのみならず今日商工業者と雖も尙其供給を得るに苦むの有樣なれば、俄かに農民の需要をのみ滿足せしめ得可きに非らざるは明白なり。然れども政府が向後ますゝ〳〵低利資金の供給に附きて最善の途を講ずること英米獨佛墺伊諸國の如くならんか、我農業の發達は將來期して待つ可きものあるや必せり。同時に斯の如き方法に依り産額の增加と品質の改良とを計るに於ては彼の穀類關稅の引上げ策の如き惡影響を社會に及すの憂も有ることなきなり。

吾人は社會の各階級は相互に聯環的關係を有することを信じて疑はず。農業は商工業の發達によりて餘惠を受け、商工業は農業が發達して農産物の供給充實し且つ農民の購買力增加するに依りて、同じく其利得に浴するに至る可きは元とより當然の事實なりと云はざる可らず。又彼の勞働者に至りても農工商各業の進歩發

達と共に勞銀の騰貴を見。兼て其生活程度の上進を來す可きが故に彼等の利益も根柢に於て農工商の繁榮と何等衝突するものなしと云ふを得可し。只是等階級中の一二者が目前の利害にのみ捕はれ、殊に他の階級に對し如何なる苦痛と迷惑とを與ふるもそは敢て問ふ所に非らず。唯々己が階級の利益をだに追及すれば可なりとの盲目的利己心に驅らるゝに於ては、結局他の階級を害し引いては自家親らを害するに至る可きなり。彼の勞働者階級が如何に勞働の自由を有し同盟休工が法律上に差支なければとて、大都會の交通機關を司る輩にして突然ストライキを決行して、長く之を繼續するが如きこと之れあらんか。市民は生活資料の供給をだに得る能はざる破目に陷り、非常の困難に遭遇せざるを得ざる可し。斯の如きは英佛諸國に於て、從來敢て珍らしからざる所にして、其結果一般物價の騰貴を來し結局勞働者自身も困難を感せざる可らざるの常なり。されば勞働者が自家の權利と利益とを伸暢せんが爲めに法律の範圍内に於て如何なる手段方法に出づるも敢て障げなしとは稱するものゝ、然も之れが爲め甚だしく他の階級を傷害せず。就中其行動に依りて第三者に迷惑を及さずとの道德的感念の伴ふに非らざれば、獨り其行動は社會多數の同情を博する能はざるのみならず遂に失敗に了るの外なきと同時に社會は之れが爲めに多大の損害を蒙るに止る可きなり。

農業と商工業者とに損害を及すことを顧みざれば遂に社會全體に取りて禍なるに於ては、農民が獨り自ら其利益を追及するに急にして他の階級と國家とを忘却するに至りては實に由々しき大事なりと稱せざるを得ざる可し。例へば今日彼等は營業稅の全廢を主張しつゝ有りと雖も今春の改正以來營業稅納稅者の數は全國に於て三十萬人に過ぎず、然も彼等は悉く中等以上の資產を有し、殊に會社銀行等が同上租稅の大部分を負擔するものなり。されば彼等は決して納稅の能力なしと認む可きに非らず、否國家は此輩より租稅を徵收するに非らずして將た何人より之を徵收す可きぞ。全國民中僅々三十萬人より徵收する其金額は千七八百萬圓に達すと云へば之れ立派なる資本家に對する課稅ならずや。國家は須く此輩より徵稅して社會政策若くは五千萬同胞の等しく其惠を受く可き殖產興業又は敎育文化費として之を使用す可きなり。然るに商工業者が農民若くは勞働者但しは直接

生産に關係せざる凡ての階級の負擔と將た其納稅能力とに何等顧慮する所なく、唯單に己が階級の負擔のみを全廢せんと狂奔するは正に國家を忘れ國民の義務を思はざる非國民的行動と評す可きのみ。要するに社會の各階級が自家の利益を追及するは可なり、然れども他の階級若くは第三者を害せざる用意の存する場合にのみ全體の利益は之に依りて到達せらる可しと雖も、自家の利害に急にして他を顧るの暇なき場合には玆に階級間の衝突を來さずむば止まざるなり。農業と商工業の衝突の如き之を衝突せしめんと欲せば何程にても衝突せしめ得可く、將た之を調和せしめんと欲せば相互の理性的發展を計るの外なしと知る可きなり(完)

大藏大臣の經濟觀を評す

高城仙次郎

一　緒言

去月十日農商務省會議室に於て開催せられたる全國代表的實業家招集會の席上にて若槻大藏大臣は我國民經濟の現狀に就きて一場の演說を試みたり。此演說の主意は先々月十五日に召集せられたる地方官會議の席上に於ける同大臣の訓示演說の如く政府の財政々策を說明するに非ずして、經濟學の見地より我國特有の經濟現象を究明するに在りたるが如し。

實際の影響より之を論ずれば、政府の財政々策は經濟現象の學理的說明よりも遙かに重要なりと雖も、政府の政策は其當否の如何を論せず政府同情者に依りて謳歌せらるゝと同時に反對派に依りて猜疑の眼を以て目せらるゝの常なるを以て、假令其政策の論據に誤謬の潛在するものあるとも、直ちに批評家の爲めに指摘せらるゝの傾向ありて從つて當局者の謬論は世論を毒すること多からず。されど